

# 被災地へ支援物資

## 広島土砂災害受け 総社市とAMDA

局地的な豪雨に伴う土砂や崖崩れによっ

て、広島市安佐南、安佐北両区で多くの死者・行方不明者が出た災害を受け、総社市と国際医療NGO「AMDA」（本部・北区）は共同で、支援物資を被災地へ送り出した。同市が昨年12月に施行した「大規模災害被災

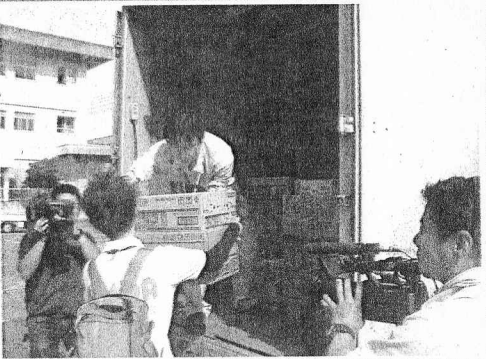
地支援条例」に基づく初の支援活動。

派遣されたのは、AMDA職員10人の山崎梨枝看護師(32)と三宅伸明・市総務課長補佐ら市職員4人。この日の出発式で、片岡聡一市長は「一人でも多くの方を救いたい」と話し、難波妙AMDA理事は「少しでも手を差し伸

べたい」とあいさつし、5人は「物資を確実に渡したい」「現場で必要とされている支援を把握したい」などと語った。

その後、5人は、ペットボトルのお茶とスポーツドリンクを各1200本、カップ麺688個、栄養ドリンク200本を積んだトラックと、市所有のミニバンの計2台に分乗し、午前9時過ぎに同市役所を出発した。

市とAMDAグループが2009年に結んだ「多文化共生に関する協定」に基づいて合同で取り組む支援。同条例で予算化された支援対策費用で物資を調達した。運んだ物資は、東日本大震災や、昨夏の山口、島根両県の豪雨災害など、これまでの支援活動経験に基づいて決めたという。



トラックに支援物資を積み込む総社市職員とAMDAスタッフ

総社市役所で

【小林一彦】